

1. 事業概要

2016 年度大学COC事業を振り返って

芝浦工業大学学長・複合領域産学官民連携推進本部本部長

村上雅人



本学は2013年に文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されました。これを契機に、埼玉エリアと東京ベイエリアを中心に、地域と連携したまちづくりとものづくりの取り組みに着手し、はや4年が経過しました。

2016年度は、教育カリキュラム改革において、「地域志向科目」の全学的履修を達成しました。また、地域との連携による共同研究やイベントなども推進し、重要な項目では最終年度の目標を前倒しで達成しています。これらの全学的取り組みと並行して、「COCプロジェクト」として、具体的な地域連携の取り組みを推進しています。

本学は、創立100周年に向けた“Centennial SIT Action”という目標を立てています。その重点項目として、研究力の強化を挙げています。大学は地域と共に育つという観点から、世界を見据えた最先端の研究と同時に、地域との連携のもと新たな教育研究を進めることも非常に重要と認識しています。また、学生が地域との連携の中で大きく育つことも経験してきました。

2017年度は、大学COC事業としての最終年度に当たります。2016年度までの取り組みを活かして、持続的な地域連携の取り組みを定着させることが、次の課題です。本学で取り組みを推進していくことはもちろんのこと、地域の各自治体、企業、市民団体の皆さまとの益々の連携を通して、大学の目的である「人材育成」と、地域の「まちづくり」「ものづくり」の活性化を推進していく所存です。今後とも、本学の諸活動についてご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

対象地域と課題

本学キャンパスが立地する江東区周辺、港区周辺、埼玉県・さいたま市を対象地域として、地域課題の解決に向けた取り組みを進める。

キャンパス立地地域の抱える課題

- 豊洲・芝浦キャンパスが立地する東京ベイエリアでは、2020年の東京オリンピックなども見据えた人口や産業の変化への対応が求められる。
- 大宮キャンパスが立地する埼玉県・さいたま市では、北関東の玄関口としての拠点性と、首都圏郊外としての居住・産業のあり方が求められる。
- これらの課題は、大都市の都心部や周縁部の特性を顕著に現しており、大学COC事業採択校の中でも特徴的な地域課題となっている。

江東区周辺

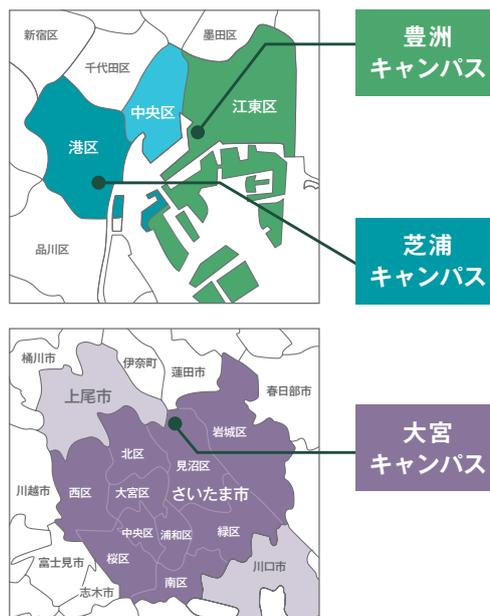
- 河川・運河の再生および有効活用
- 希薄化した地域コミュニティの改善
- 見守りや災害などのコミュニティの強化
- ものづくり産業の国内回帰

港区周辺

- 政治・経済・文化の中心地としての環境づくり、商業・業務・住宅の共存
- 歴史・水・緑を活かした景観形成・都市観光
- IT・デザイン産業、高所得住民のニーズ

埼玉県・さいたま市

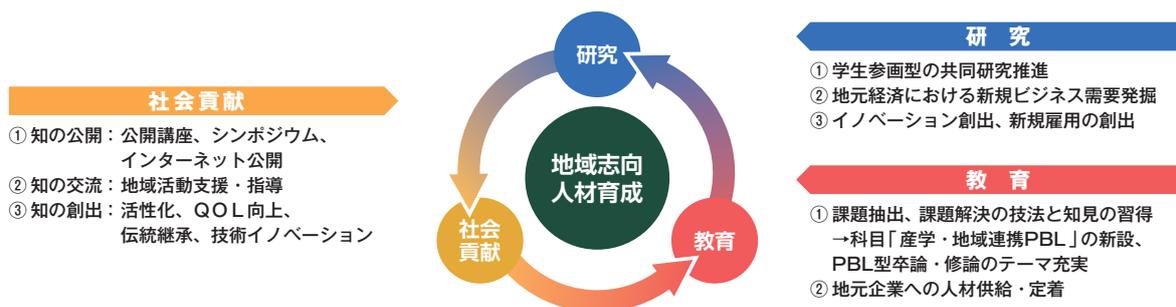
- 活力ある都市環境、低負荷環境
- 協働による都市・地域計画システム
- 高齢化に対応したモビリティ
- 都市の個性、地域企業、商店街機能
- 次世代自動車・スマートモビリティ特区



取り組みの特徴

地域に関する教育カリキュラム改革を全学的に推進すると共に、具体的な地域に関する教育・研究・社会貢献を一体的に取り組む「COCプロジェクト」を設定している。これらの取り組みを通じ、地域ぐるみの人材育成システムを確立し、本学の人材育成の理念である「社会(世界)に学び社会(世界)に貢献できる理工系人材育成」につなげていく。

地域のニーズ・地域の課題・地域団体との連携・実践教育の場の提供



教育カリキュラム改革

- 2014年度から「地域志向科目」と共に、シラバスに「地域志向ラベル」を設定し、地域志向科目の「見える化」を図ってきた。
- 地域志向科目の増加と並行して、必修・共通科目の地域志向化を推進し、2016年度からは全学部で地域志向科目の必修化を達成した。

※ 具体の地域志向科目数・必修化達成状況は、P3に示す。

学年	1年	2年	3年	4年
地域志向授業科目	地域の事例・課題の理解と解決策に関する科目群			
地域連携PBL		地域課題解決に対する提案を行う演習群		
地域志向研究論文				卒業論文

地域イベントや地域公開講座への参加

地域志向カリキュラムの特徴

より多くの学生が、地域と連携して課題抽出、分析・計画、課題解決アプローチなどの実践能力を磨くことを目指して下記を設定している。

〔地域志向授業科目〕

「少子高齢化」「エネルギー・水・食料・環境」「地域の安全・安心」「産業振興」など地域社会の問題を取り扱う授業科目

〔地域連携PBL〕

地域貢献を体現できる実学教育の場として、フィールドワークなどの演習活動の中でグループディスカッションを通して課題解決を検討する科目

〔地域志向研究論文〕

地元企業や自治体のニーズを背景にして、地域の事例・課題をテーマとして取り上げた研究論文

■ 上記カリキュラムを通して、地域の課題解決に貢献する、地域志向人材の育成を目指している。

COCプロジェクト

- 「まちづくり」と「ものづくり」の観点から、複数教員の取り組みを集約し、地域との連携のもと、具体的に教育・研究・社会貢献を推進するのが「COCプロジェクト」である。
- プロジェクト数(参加教員数)は、2013年度当初の7(31名)から、2016年度20(79名)と増加している。

※ 具体のプロジェクトについては、P4以降に示す。

地域との連携体制構築

- 持続的な地域連携を継続していくために、連携地域自治体との包括連携協定を締結して、活動基盤を強固にしている。

- ・ 江東区：平成19年11月 包括連携協定
- ・ 港区：平成21年10月 包括連携協定
- ・ さいたま市：平成27年4月 イノベーション協定
- ・ 埼玉県：平成28年5月 包括連携協定

協定書を取り交わす
村上雅人学長(左)と
上田清司知事(右)、
平成28年5月19日

